

平成30年1月14日(日)福島県郡山市の郡山市地域職業訓練センターにて、東北支部A/B講座が開催されました。晴天とはいえ氷点下で寒風吹きすさぶ中、総勢83名の方が参加されました。アンケートでは、日頃の臨床実践に生かしたい、学校での学習に役立てたいとの感想がありました。

講演1「患者中心の医療の方法」では、福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座 講師 菅家智史先生より、患者中心の医療の方法がどのように役立つのか、患者中心の医療の方法を臨床現場でどのように利用するのかを、模擬シナリオを通して解説をしていただきました。共通の理解基盤を見出す過程では、悩みを紐解くキーワードを元に患者の苦悩を探り、患者を全人的に理解し、治療者との相互の関係性を構築することの重要性を再認識しました。



模擬シナリオをもとに解説される 菅家智史 先生

講演2「認知症と鍼灸」では、学校法人後藤学園中医学研究所 所長 兵頭明先生より、認知症に対する東洋医学の可能性を探ったご講演をしていただきました。認知症ばかりではなく、老化に伴う関連症状についても東洋医学的に解説をしていただき、鍼灸としてのアプローチ方法と臨床報告から、鍼灸師の役割について、全身の力を込めてメッセージを伝えていただきました。東洋医学としての鍼灸の強みを改めて喚起される内容でした。



認知症と鍼灸について熱弁される 兵頭明 先生

講演3「100歳まで生き生きと～肩こり・腰痛対策～」では、帝京科学大学 医療科学部 東京柔道整復学科 准教授 行田直人先生より、肩部や腰部の凝り、張りや痛み感などの愁訴について、触診法や好ましいと好ましくない姿勢を分かりやすく図解していただき、目的とする筋肉の捉え方や解消するための体操の実演指導をしていただきました。1日座り通しの参加者からはてきめん体操の効果が現れ、歓喜の声がここかしこから上がっていました。



体操の実演を交えて解説される 行田直人 先生

次回は7月1日(日)宮城県仙台市 東北大学医学部を会場として学術集会を予定しております。当日は日本東洋医学会と合同で開催予定です。詳細は決まりましたらご連絡いたします。